



回顧展「別府貫一郎が描いたイタリア」シンポジウム

# 画家 別府貫一郎が愛した ヴェネツィアとナポリ

L'Italia del pittore Beppu Kan'ichirō: Venezia e Napoli

2026.4.3 金  
13:00~18:00 (開場 12:30)

【入場無料(要申込)】

右のQRコードからお申込みください。

お問い合わせ  
event.iictokyo@esteri.it



会場

イタリア文化会館ホール

千代田区九段南 2-1-30 (東京メトロ東西線、半蔵門線、都営新宿線「九段下駅」(出口2) 徒歩約10分)

主催

別府貫一郎回顧展及び  
関連シンポジウム実行委員会

イタリア文化会館

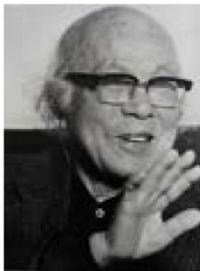


後援

公益財団法人 日伊協会



2026年は日本とイタリアの国交樹立160年にあたります。本シンポジウムでは、1929年(昭和4年)に初めてイタリアの地を踏み、92年の人生の多くの時間をイタリアに住み風景画を描き続け、戦前戦後にわたり日本画壇で活躍した画家・別府貫一郎を軸として、別府と直接間接に交流を持った世代、その後の世代も含め、様々な分野における日伊文化交流の軌跡を振り返ります。別府貫一郎(1900-1992)は、イタリアの都市のなかでも、ヴェネツィア、ナポリを愛し、多くの風景画を残しました。シンポジウムではまず、別府貫一郎の画業をヴェネツィア景観画の系譜のなかに位置づけ、また我が国の洋画史の系譜のなかで、その意義と価値を明らかにしていきます。別府はまた、緒方惟直、寺崎武男など、明治期にヴェネツィアで活躍した日本人先達の軌跡を調査した日伊文化交流に関する研究活動にも尽力しました。美術の枠を越え、芸術、文化の広い領域でイタリア(特にヴェネツィア、ナポリ)との交流に活躍する専門家が集結し、別府の功績を振り返りつつ、日伊文化交流の歩み、歴史を、明治から今日まで大きな視野で描き出します。



## 別府貫一郎 略歴

1900年佐賀県に生まれる。台北中学時代に石川欽一郎に水彩画を学び、21歳で上京、川端画学校で藤島武二の指導を受ける。1926年春陽会賞受賞。1928年からパリのグラン・シヨミエ研究所で学び、翌年イタリアに渡る。1933年帰国。1935年再渡欧。翌年、国画会展にて滞伊作品特別陳列。1946年日本美術会が結成され、委員長を務めた。戦後も渡伊7回、ナポリ、フィレンツェ、後半はヴェネツィアを中心に約30年イタリアに住み、風景画を描き続けた。戦前から、ナポリ生活、アマルフィ探訪などの軽妙なエッセイを多くの雑誌に発表。1970年前後から、明治期のヴェネツィアの高等商業学校で日本語を教えた日本人の足跡を調べ、緒方惟直（緒方洪庵の末子）の墓を発見した。1975年勲三等瑞宝章を受ける。85歳で帰国。1992年青梅の慶友会病院にて92歳で永眠。

## プログラム

13:00-13:15

### はじめに

挨拶 シルヴァーナ・デマイオ（イタリア文化会館館長）

趣旨説明 陣内秀信（法政大学名誉教授、イタリア都市史）

13:15-14:15

### 第1部 画家 別府貫一郎の活動の軌跡とその再評価

越川倫明（東京藝術大学教授、イタリア美術史）

「ヴェネツィア景観画の伝統のなかで」

貝塚健（千葉県立美術館館長、近代日本美術史）

「黄昏の、サン・ジョルジョ・マッジョレー—近代日本洋画のなかの別府貫一郎」

石井元章（大阪芸術大学教授、西洋美術史・日伊文化交流史）

「別府貫一郎画伯による緒方惟直の発見」

藪野健（早稲田大学名誉フェロー、日本芸術院会員）

「別府貫一郎さんの描いたヴェネツィア」

14:20-15:20

### 第2部 ナポリ

シルヴァーナ・デマイオ（イタリア文化会館館長）

「ナポリと日本の交流の歴史」

押場靖志（イタリア語教師、イタリア映画研究）

「サイレント映画にみるナポリ：エルヴィラ・ノターリの作品を中心に」

内田洋子（ジャーナリスト）

「時空（とき）の町」（ビデオ録画出演）

中橋恵（インディペンデント・リサーチャー、イタリア都市・住宅・社会）

「ナポリの多様性と景観」

二村高史（紀行作家、公益財団法人日伊協会常務理事）

「別府貫一郎さんが愛したナポリの過去と今」

15:40-18:00

### 第3部 ヴェネツィア

渡辺真弓（東京造形大学名誉教授、西洋建築史）

「画伯が愛したヴェネツィアの夕陽と水に映える建築」

大町志津子（国際衣装デザイナー、杉野服飾大学特任教授）

「別府先生との思い出とラ・フェニーチェ劇場上演『ラ・トラヴィアータ』の衣装デザイン」

陣内美子（翻訳家）

「大平洋—ヴェネツィア・ガラスの美の探究者」

中西忍（建築家、東京藝術大学客員教授）

「80年代、私が暮らしたポストモダンとしてのヴェネツィア」

新井巖（フェニーチェ劇場友の会代表、千代田区文化芸術協合理事長）

「ヴェネツィアの至宝フェニーチェ劇場再建活動とオペラのあゆみ」

樋渡彩（近畿大学工学部建築学科講師、イタリア都市史）

「ヴェネツィアとラグーナ—水の価値の再発見」（ビデオ録画出演）

上浪えりか（イタリア大使館 大使秘書室・通訳 文化担当）

「ヴェネツィア育ちの原体験と歴代イタリア大使のもとでの日伊交流」

三木智映子（株式会社ミキインターナショナル 代表取締役）

「運河の街に酔いしれて—ヴェネツィアの日常を彩る“バーカロ”文化」

別府達郎（貫一郎次男、(一社)次世代センサ協議会理事・海洋計測センサ技術研究会代表）

別府明子（達郎の妻、心理カウンセラー、貫一郎を在宅にて介護した）

「父親としての別府貫一郎」

司会

陣内秀信（法政大学名誉教授、イタリア都市史）

栗生はるか（一般社団法人せんとうとまち代表理事）

## 回顧展

# 別府貫一郎が描いたイタリア

2026.4.2(木)~4.23(木) 10:30~17:30 (休室日:日曜日、4/6)

イタリア文化会館エキジビジョンホール 【入場無料】

イタリア文化会館

〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-1-30

Istituto Italiano di Cultura di Tokyo

2-1-30 Kudan Minami, Chiyoda-ku, Tokyo



会館HP



会館地図

